



支援便り

令和4年8月発行 第3号
串木野養護学校 支援部

3年ぶりに「串養夏季セミナー」を開催！

7月26日（火）、「令和4年度串木野養護学校夏季セミナー」を開催しました。今年度は参加人数や時間を制限しての御案内でしたが、当日は暑い中、そしてコロナの感染拡大がなかなか収まらない中で、25人の方（園5・小15・中3・高2）に来校していただきました。

今回は、県こども総合療育センターとの共同研修ということで、センターよりお二人の先生をお招きし、講話を拝聴したり、情報交換会を行ったりしました。



講話① 「県こども総合療育センターの機能と受診の仕方について」

上野幸太先生

普段から園・学校の子供たちの相談支援に当たっていただいている県こども総合療育センターについて、センターの機能、受診・診療の流れ、受診前に園・学校でできることを考える必要性、相談支援専門員との連携など分かりやすい資料を提示して丁寧に説明してくださいました。

【アンケートより一部掲載】

「県こども総合療育センターについて知らなかったことや誤った認識があった。大変参考になった」

「県こども総合療育センターの機能やつなげ方など知らなかったので大変勉強になりました。学校に戻って他の職員へ知らせたい内容であった。」

「まずは園内でできることを子供や保護者と向き合って少しずつすすめていきたい」

「学校での子どもの特性に応じた環境調整や合理的配慮を大切にしていきたいと思いました。」



講話② 「特別支援教育に生かす作業療法の視点と実際」

道岡真貴子先生

作業療法士の立場から、子供を観察する視点として、感覚面、姿勢、眼球運動・見る力巧緻動作の4つの視点を挙げて、具体的な事例も交えながら、分かりやすく丁寧にお話ししていただきました。私達が普段、園・学校で見ている子供たちの行動や姿の背景を考えるたくさんのヒントを得ることができました。

【アンケートより一部掲載】

「目の前にいる子供の実態をいかに注意深く観察すべきか、また、多くの目で多方面から観て気付いてあげることの大切さを感じた。」

「講話をお聞きしながら自分が関わっている生徒が浮かんだ。彼らの行動にはこういう意味・理由があるのかもしれないと照らし合わせることができた。子供を見ていく視点としてすぐに試したい。」

「高校教育においても、競技等の習熟度に差がある理由の裏付けとなった。」

「子供の発達を見据えた関わりの大事さ、実態や特性を踏まえた関わり、たくさんヒントをいただきました。」



情報交換会

講話の後は、参加者に6グループに分かれてもらい、本校の職員が進行役を務めながらそれぞれの学校・園の現状や課題を中心に情報交換会を実施しました。時間が少なく申し分けなかったのですが、どのグループも活発な意見交換がなされていました。ネットワークづくりの場にもなったようです。

【アンケートより一部掲載】

「自身の悩み、課題に対していろいろなご意見をいただけて、とても有り難かったです。」

「知的や情緒などそれぞれ悩みは違うが、2学期から頑張れそうだ。」

「他校種の先生方に現状をお聞きすることができてよかった。」

「それぞれの学校の取組や工夫が聞けてよかった。」

「同じような悩みがあることが分かっただけでもよかった。」

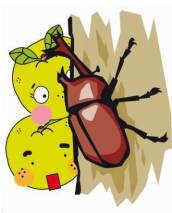


～各グループで話題になったこと～

- ・ 気になる子供への関わり方（集団の中で、個別など）
- ・ 保護者との連携・コミュニケーションの難しさ
- ・ 外部機関との連携
- ・ 異学年の知的障害学級の指導について
- ・ 交流学級で過ごす上でのルールづくりについて
- ・ 通常学級でのグレーゾーンな子供の対応について
- ・ 校内支援委員会、校内就学指導委員会の進め方について
- ・ 支援学級における具体的な指導、支援について（教科、自立活動など）
- ・ 保育所等訪問事業に関する課題
- ・ 行動面の課題が強い児童（暴言・暴力）の周辺の児童に対する指導のあり方
- ・ 支援学級生の卒業後の進学・就職について



など



セミナーの運営全般に関して、「コロナ禍で感染対策等配慮しながら、このような貴重な勉強の機会をつくっていただきありがとうございました。」「大変有意義な会を過ごせました。」「開催を楽しみに待っていました。校内での情報発信に生かしたいと思います。」など、開催してよかったと思えるような感想をたくさんいただきました。これからも地域の特別支援教育のセンター的役割を果たせるよう努めて参ります。

おしらせ

10月3日（月）に、「串木野養護学校第2回学校見学会」があります。
詳細は、7月に発送した案内を御覧ください。